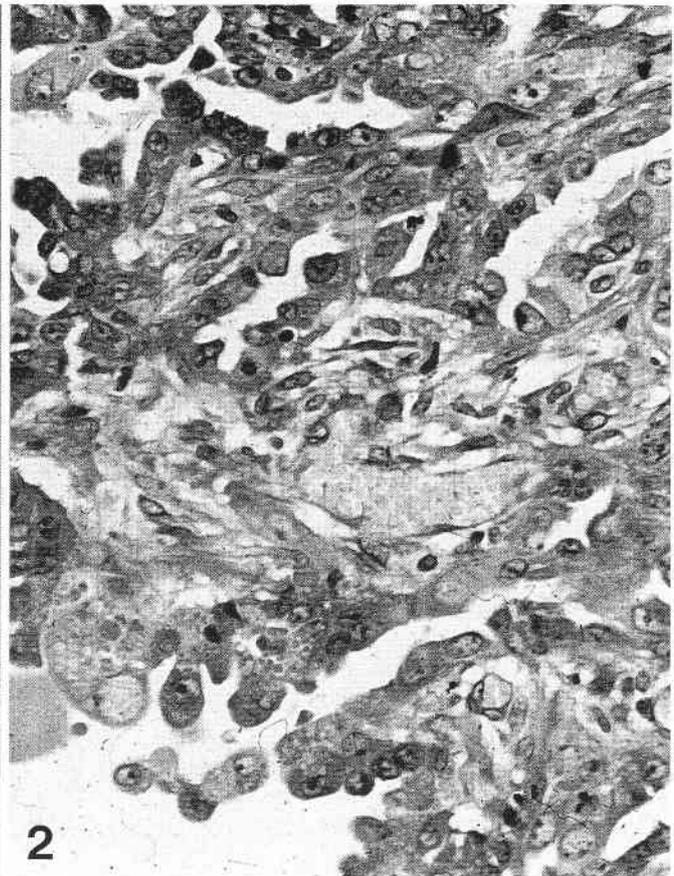
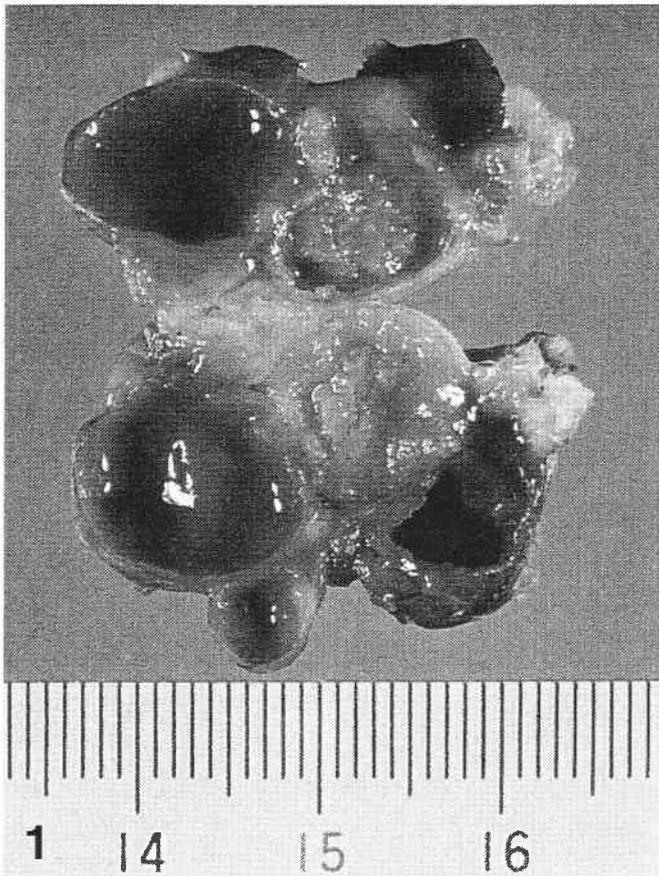


ゴールデンハムスターの腹部腫瘍

日本大学生物資源科学部獣医病理学教室出題 第41回獣医病理学研修会標本 No. 807



動物：ゴールデンハムスター，雌，年齢不明，体重不明。

臨床事項：右後肢付近の腹部に腫瘍が発生したため摘出したが再発。増大したために再度摘出し，この腫瘍について検索を行った。症例は2回目の摘出手術の10日後にまた再発し，2週間後に安楽死させるに至った。剖検はできなかった。

肉眼所見：腫瘍は大きさ約 $2.2 \times 3.3 \times 1.7$ cmで，暗赤色，小塊状をなし，表面および断面には大小の嚢胞が形成されていた。嚢胞の内部には褐色粘調性の液体が充満し，嚢胞内に充実性増殖を示す部位もみられた（写真1）。

組織所見：腫瘍細胞は皮下織内において嚢胞状を呈し，嚢胞内に不規則な腺腔を形成しながら増殖し，一部乳頭状増殖を示した。内腔には剝離細胞を認めた。マッソン・トリクローム染色で重層増殖している腫瘍細胞に伴って周囲結合組織の侵入がみられ，腫瘍細胞間にはアルシアン青・PAS染色陽性物質が確認された。細胞質内にベルリンブルー染色陽性

顆粒はみられなかったが， α -アミラーゼ処理PAS染色では， α -アミラーゼに耐性を示すPAS陽性顆粒がみられた（写真2）。腫瘍細胞の核は大型，淡明で，卵円形および楕円形を示し，核小体が明瞭なものもあった。腫瘍細胞は免疫組織化学的に抗ケラチン/サイトケラチン抗体に陽性を示した。電顕検索により，腫瘍細胞はくびれを有する卵円形あるいは楕円形の核を持ち，核質にはクロマチンが均等に分布し，細胞内小器官は明瞭で，リボゾームおよび小胞体の発達が著しく，細胞間には多数の微絨毛が認められた。

診断および考察：組織所見においてアポクリン分泌を思わせる部位がみられ，PAS陽性— α -アミラーゼ抵抗性顆粒を含む好酸性の細胞質，異常核分裂が認められた。以上の所見によりアポクリン汗腺癌と診断したものの，性別および腫瘍発生部位から乳癌との鑑別が重要だと考えられ，最終診断名は「アポクリン汗腺癌と思われる腺癌」とした。